

分野	主要な道路の整備			事業番号	38	事業名	道路改築(国道小規模改築)		
市町村名	長野市	ふりがな箇所名	(国)406号 <small>あらくら</small> 新倉			事業年度	年度～年度		
計画概要 <small>(延長・幅員・面積・工種など)</small>		道路築造工 L=640m W=6.0(9.75)m				H23年度末事業進捗率		0%	
事業	H24年度以降実施内容		同上			本工事費等ベース		0%	
	H24年度実施内容		-			用地補償費ベース		0%	
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残			
概要	事業費計(千円)		480,000	0	0	0	480,000		
	財源内訳	国庫支出金	288,000	0	0	0	288,000		
		その他							
		県債	172,800	0	0	0	172,800		
		一般財源	19,200	0	0	0	19,200		
観点	評価項目・指標等		評価			ランク	評点		
箇所評価	必要性 (30)	計画交通量	10,000台/日以上	1,500台以上～10,000台/日未満	1,500台未満	A	2		
		代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある			3		
		ネットワーク(道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある	駅やインターチェンジが20km以上にある	駅やインターチェンジに通じる路線でない			5	
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない			7	
			観光地に通じる道路	観光地に通じる道路ではない			3		
		各事業特有の必要性(安全の確保)	5.5m未満又は6.0m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)	5.5m以上6.5m未満(幅員)	6.5m以上(幅員)			4	
			自動車と自転車・歩行者との分離を図る	歩道はあるが不十分であるものを再整備	自転車と自転車・歩行者との分離がなされていない			4	
	小計						28		
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)	該当なし	C	0		
		設計上の環境・景観配慮	環境・景観配慮がされ確実性が高い	環境・景観配慮がされているが確実性が低い	環境・景観配慮をしていない		2		
地域の法的な位置付け		緊急輸送路(1次)に位置付けられている	緊急輸送路(2次)又は、振興山村、積雪地域、過疎地域、地震防災対策強化地域、観光圏整備実施計画認定地域に位置付けられている	特別な位置づけはない	3				
小計						5			
効率性 (15)	費用対効果	B/C(3便益)1.0以上	B/C(3便益)1.0未満(3便益以外の観点から一定の効果が見られる)	B/C(3便益)1.0未満	A	3			
	事業効果の早期発現(H24以降残事業年数)	事業年数 5年未満	事業年数 5年～10年未満	事業年数 10年以上		5			
	コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない		7			
	小計						15		
緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない	B	4			
	各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所又は騒音・振動箇所が緩和する	渋滞箇所又は騒音・振動箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する	渋滞対策又は騒音・振動対策ではない		5			
		医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)	医療・福祉の連携に関係ない道路		5			
小計						14			
計画 熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い	市町村からの要望	特に要望がない	B	5			
	事業情報の共有	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない		5			
	住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加	住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない		4			
	小計						14		
費用対効果(B/C)		2.4	評価の合計			A	76		
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該路線は白馬村から長野市を結ぶ重要な幹線道路であり、第2次緊急輸送路に指定されている。また、長野市西部と市街地を結ぶ唯一の幹線道路である。しかし、現道は幅員狭小の上、線形が悪く、交通の難所であるとともに、事前交通規制区間となっている。拡幅改良により安全で円滑な交通の確保を図る必要がある。							
	地域からの要望経緯	毎年、国道406号整備促進期成同盟会より要望書が提出されている。また、毎年、長野市からも要望を受けている。平成22年2月には地元説明会を行い、地元では地権者会を設立する動きがあり、支援の動きが広がっている。							
	事業説明等の経緯	毎年行われている期成同盟会及び現地調査時に、今までの経過及び今後の見込みについて説明を行っている。							
	環境・景観への配慮項目	構造物ではなく、土羽構造物による緑化を図り環境へ配慮。							
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。							
特記事項	鬼無里小学校の通学路にも指定されており、道路が狭く、車と歩行者のすれ違いに危険な状況であり、早急な事業着手が望まれる。								
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他				
部意見	事業の必要性及び効率性は高いが地元のルート定着が図られていないため、事業化を見送りたい。			政策評価意見	重要性がやや低い。				